

みんなのケア情報学会 第7回年次大会 CIHCD2024

7th Annual Conference of Citizen Informatics for Human Cognitive Disorder

Life〈生命・生活・人生〉を支えるエビデンス×ナラティブ×AI
～みんなで学びケアし合う社会をつくろう～

日程

2024 10/19(土) 18:00～20:00 10/20(日) 10:00～18:00

会場

FUSE (フューズ) 浜松市中央区鍛冶町100-1 ザザシティ浜松中央館地下1階

インタラクティブセッション

概要集



2024 年

10 月 19 日 18:10-20:00 ポスター発表

10 月 20 日 12:10-12:30 発表者 1 分スピーチ

主催

みんなのケア情報学会



みんなの
ケア
情報学会



03-6824-9376



contact@cihcd.jp



インタラクティブセッション 目次

1. 西村真由美，中山健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野）
「認知症緩和ケアゴールモデルの開発と検討：国際専門家パネルによるデルファイスタディ」……1
2. 嘉代恵玲菜，青野修一（玉川大学工学部ソフトウェアサイエンス学科）
「詩歌療法のための LLM セラピストの作成」……1
3. 佐藤慶子¹⁾，松浦博²⁾（1 株式会社 MuCuL 2 静岡県立大学）
「声からエクササイズに基づく呼吸と声による健康ケア」……2
4. 松田圭子（Livie's Jump，メタデータ株式会社）
「生成 AI ベースのメンタルケア対話ボットの企業内利用コンセプトと提供準備について」……2
5. 佐藤幹代，半澤節子，大塚公一郎，杉田綾子，春山早苗（自治医科大学看護学部）
「ディベックス・ジャパン「認知症の語り」を活用した看護継続教育プログラムの実践」……3
6. 橋本岳¹⁾，竹林研人²⁾，古閑比佐志²⁾，島尾青空¹⁾，橋本智洋³⁾，水野拓宏⁴⁾，関正宏⁴⁾
（1 静岡大学，2 岩井整形外科病院，3 東京大学，4(株)アルファコード）
「脊椎内視鏡トレーニングシステムの実用化に向けた画像計測の観点からのアプローチ」……3
7. 佐藤(佐久間)りか¹⁾，土肥栄祐¹⁾²⁾，水野光¹⁾³⁾，豊本莉恵¹⁾⁴⁾，佐藤幹代¹⁾⁵⁾，澤田明子¹⁾⁶⁾，
射場典子¹⁾⁷⁾，吉田恵理子¹⁾⁸⁾（1 ディベックス・ジャパン(DIPEX-Japan) 2 国立精神神経医療
研究センター神経研究所疾病研究第3部 3 関西医科大学大学院看護学研究科治療看護分野・
慢性疾患看護学領域 4 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野 5 自治医科大学看護
学部成人看護学 6 麗澤大学学生相談室 7 聖路加国際大学 PCC 開発・地域連携室 8 長
崎県立大学シーボルト校看護栄養学部看護学科）
「認定 NPO 法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」の取り組み」……4
8. 土肥栄祐¹⁾⁸⁾，豊本莉恵²⁾⁸⁾，水野光³⁾⁸⁾，澤田明子⁴⁾⁸⁾，佐藤幹代⁵⁾⁸⁾，吉田恵理子⁶⁾⁸⁾，
射場典子⁷⁾⁸⁾，佐藤(佐久間)りか⁸⁾（1 国立精神神経医療研究センター神経研究所疾病研
究第3部 2 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野 3: 関西医科大学大学院看護
学研究科治療看護分野慢性疾患看護学領域 4 麗澤大学学生相談室 5 自治医科大学看護学
部成人看護学 6 長崎県立大学シーボルト校看護栄養学部看護学科 7 聖路加国際大学 PCC
開発・地域連携室 8 ディベックス・ジャパン(DIPEX-Japan)）
「認定 NPO 法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」の事例共有」……5

9. 大西久男¹⁾, 戸國真佐子²⁾, 荻田理恵³⁾ (1 大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所
2 立命館大学大学院社会学研究科 3 脳損傷による遷延性意識障がい者と家族の会「わかば」)
「遷延性意識障害者と家族の軌跡: 医療と福祉の融合のためには?」……………6
10. 河野文子, 中山健夫 (京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野)
「疾患をかかえる患者の心に寄り添い共感を示す対話型の患者向け AI 支援ツールの開発: 研究
計画」……………6
11. 廣部敬太, 小俣敦士, 水野拓宏, 村上佑順, 三浦繁雄, 樋口直美, 石川翔吾 (静岡大学)
「認知症当事者との co-production による PX 体験空間の構築」……………7
12. 宮原美香 (日本臨床美術協会) 「臨床美術をベースにしたアート活動の実践」……………7
13. 日野ひまわり (株式会社栄農人)
「源流主義とテクノロジー ～日本の農業を変革する栄農人の取組～」……………8
14. 大野木健二 (介護老人保健施設太陽の丘) 「萌和会の新しい取り組み」……………8
15. 大塚千夏子 (一般社団法人日本こども成育協会)
「親のための「こどもの育ち観察支援」WEB アプリ活用について」……………9
16. 島尾青空, 藤田憲一郎, 水野拓宏, 神田洸士, 寺島広樹, 桐山伸也
(静岡大学ケア情報学研究所)
「VR 技術を活用した歩行と姿勢の改善のための運動介入プログラム開発」……………9
17. 山中望¹⁾, 小俣敦士^{1,2)}, 村上佑順³⁾, 菅家穰⁴⁾, 香山壮太⁴⁾, 石川翔吾¹⁾
(1 静岡大学 2 浜松医科大学 3 一般財団法人オレンジクロス 4 郡山市医療介護病院)
「認知症ケア教育における 360°PX コンテンツ体験時の教育効果評価方法の検討」……………10
18. 生源寺類¹⁾, 島尾青空¹⁾, 石原進¹⁾, 水野拓宏²⁾, 石川翔吾¹⁾
(1 静岡大学 2 株式会社アルファコード)
「360 度没入型 VR コンテンツを活用した学生向け安全衛生教育の取り組み」……………10
19. 市川享子 (東海大学健康学部)
「エイジングインプレイスを支える政策と生活支援に関する研究 ―デンマークモデルと日本の比
較」……………11
20. 林 侑輝 (米子工業高等専門学校)
「居場所の認知的な性質 ―〈時間〉と〈構造〉に着目した検討―」……………11

1.

発表者	西村 真由美
共同発表者	中山 健夫
所属	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 健康情報学分野
会員種別	賛助会員
タイトル	認知症緩和ケアゴールモデルの開発と検討：国際専門家パネルによるデルファイスタディ
概要	背景：認知症は進行に伴いケアゴールが変わる。既存の緩和ケアのモデルは、本人の医学的側面に重点がおかれているが、当事者と家族の心理社会的側面もニーズが高い。 目的・方法：新しい認知症緩和ケアゴールモデルの開発のため、国際的な認知症緩和ケアの専門家パネル（33 カ国、107 人）によるデルファイ法を実施（京都大学と蘭ライデン大学の倫理委員会承認）。 結果：5つの目標から成る新たな緩和ケアゴールモデルが開発された。本モデルの普及により、介護の場で心理社会的側面も含むケアゴールの設定と達成が期待される。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

2.

発表者	嘉代恵玲菜
共同発表者	青野修一
所属	玉川大学工学部ソフトウェアサイエンス学科
会員種別	学会会員
タイトル	詩歌療法のための LLM セラピストの作成
概要	本稿は LLM を用いた日本語によるカウンセリングの実現と、詩歌療法における詩の選出の難しさの解決を課題とする。Cho らによる研究では LLM セラピストの共感性の高さと、個別性や深みの不足という課題が指摘された。本稿ではクライアントの感情の解放と認知変容を促す詩歌療法を用いて、課題の解決を目指す。さらに詩歌療法で使用するにふさわしい詩を LLM セラピストが提供できるようにすることを目指す。今後は被験者を募り、LLM セラピストの有用性を検討する。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

3.

発表者	佐藤 慶子 ¹⁾
共同発表者	松浦 博 ²⁾
所属	1) 株式会社 MuCuL 2) 静岡県立大学
会員種別	賛助会員
タイトル	声からエクササイズに基づく呼吸と声による健康ケア
概要	「声から」は声の持つ根源的な生命エネルギーであり、それによって心身ともに幸せに生きるという佐藤慶子が開発した方法論である。「心」と「身体」を活性化させて本来の発話を促す「呼吸と声のエクササイズ」は 46 種類のエクササイズから構成され、健康ケアにも極めて有効である。本開発では株式会社アルファコードの協力を得て、基本となるエクササイズを 3D 映像としてコンパクトに作成した。本映像を視聴し正しくエクササイズすれば、指導者が付き添う必要が無くセルフケアにつながれるとともに、将来的な普及につながると考えている。ここでは本映像の概要を紹介し、併せて FUSE 内の studio にて本映像の VR 視聴とエクササイズ体験をしていただく。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

4.

発表者	松田 圭子
共同発表者	
所属	Livie's Jump, メタデータ株式会社
会員種別	学会会員
タイトル	生成 AI ベースのメンタルケア対話ボットの企業内利用コンセプトと提供準備について
概要	生成系 AI とロジックのハイブリッド型で実装したメンタルケア対話ボット「やわらかネコ」は個人向けに開発し、2023 年 9 月より β 提供を行っています。現在、この「やわらかネコ」をベースとし、企業内で従業員のメンタルケアに用いたいという需要に応える「ほっと猫」を研究開発中です。個人向けと企業内利用でのコンセプトの差と、それによる実装・提供における差について発表します。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

5.

発表者	佐藤幹代
共同発表者	半澤節子 大塚公一郎 杉田綾子 春山早苗
所属	自治医科大学看護学部
会員種別	学会会員
タイトル	ディベックス・ジャパン「認知症の語り」を活用した看護継続教育プログラムの実践
概要	文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア開発研究事業」を受け、へき地診療所やへき地医療拠点病院、地域中核病院等の看護実践に寄与するために、「高齢者看護演習プログラム（認知症ケア）」プログラムを開発した。ディベックス・ジャパンの「認知症の語り」を活用したe-ラーニングによる講義および、対面や遠隔による集合研修のプログラムとその評価の概要を紹介し、より良いプログラムについて検討する。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

6.

発表者	橋本 岳 ¹⁾
共同発表者	竹林 研人 ²⁾ 、古閑 比佐志 ²⁾ 、島尾 青空 ¹⁾ 、橋本 智洋 ³⁾ 、水野 拓宏 ⁴⁾ 、関 正宏 ⁴⁾
所属	1 静岡大学、2 岩井整形外科病院、3 東京大学、4(株)アルファコード
会員種別	学会会員
タイトル	脊椎内視鏡トレーニングシステムの実用化に向けた画像計測の観点からのアプローチ
概要	脊椎内視鏡は、低侵襲性や回復期間の短縮という多くの利点があるものの、高度な技術や精密さが求められるため、専門的なトレーニングと経験が必要であり習熟するまでに長い時間と練習を要する。そのため、熟練した医師の人数が限られているのが現状である。そこで本研究は、脊椎内視鏡トレーニングツールにおいて、ドリル・トロカール等の操作を計測するトレーニング中の補助システムの作成を目的とする。本発表では、熟練者のドリル・トロカールの動きを画像計測した結果を発表する。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

7.

発表者	佐藤（佐久間）りか ¹⁾
共同発表者	土肥栄祐 ^{1) 2)} 、水野光 ^{1) 3)} 、豊本莉恵 ^{1) 4)} 、佐藤幹代 ^{1) 5)} 、澤田明子 ^{1) 6)} 、射場典子 ^{1) 7)} 、吉田恵理子 ^{1) 8)}
所属	1)ディベックス・ジャパン (DIPEX-Japan) 2)国立精神神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第 3 部 3) 関西医科大学大学院看護学研究科 治療看護分野・慢性疾患看護学領域 4) 京都大学大学院医学研究科 健康増進・行動学分野 5) 自治医科大学 看護学部 成人看護学 6) 麗澤大学 学生相談室 7) 聖路加国際大学 PCC 開発・地域連携室 8) 長崎県立大学 シーボルト校 看護栄養学部看護学科
会員種別	学会会員
タイトル	認定 NPO 法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」の取り組み
概要	ディベックス・ジャパンは「当事者主体の医療・福祉の実現」をミッションに掲げ、体験した人にしか語れない「当事者の語り」を体系的に収集し、動画共有など社会資源としての活用を通して”病いや困りごとに向き合うための知恵と勇気を提供すること”に取り組んでいます。本発表では 17 年間の歴史とその成果である「健康と病いの語りデータベース」の現状、活動から得た学びをご紹介します、第 2 報のデータベースの利活用の事例共有につなげます。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

8.

発表者	土肥栄祐 ^{1) 8)}
共同発表者	豊本莉恵 ^{2) 8)} 、水野光) ^{3) 8)} 、澤田明子 ^{4) 8)} 、佐藤幹代 ^{5) 8)} 、吉田恵理子 ^{6) 8)} 、射場典子 ^{7) 8)} 、佐藤（佐久間）りか ⁸⁾
所属	1) 国立精神神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第 3 部 2) 京都大学大学院医学研究科 健康増進・行動学分野 3) 関西医科大学大学院看護学研究科 治療看護分野 慢性疾患看護学領域 4) 麗澤大学 学生相談室 5) 自治医科大学 看護学部 成人看護学 6) 長崎県立大学シーボルト校 看護栄養学部 看護学科 7) 聖路加国際大学 PCC 開発・地域連携室 8) ディベックス・ジャパン (DIPEX-Japan)
会員種別	学会会員
タイトル	認定 NPO 法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」の事例共有
概要	ディベックス・ジャパンは、収集した「当事者の語り」を社会資源として活用することに取り組んできました。活用事例としては、教育機関や医療者への現任教育の教材、地域コミュニティでのワークショップ、またアート表現への応用や、研究者へのデータシェアリングなど、多岐に渡っています。本発表ではこれまでのデータベースの利活用の事例を共有するとともに、さらなる活用の可能性に関して議論できる機会にしたいと考えています。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

9.

発表者	大西 久男 ¹⁾
共同発表者	戸國 真佐子 ²⁾ 荻田 理恵 ³⁾
所属	1)大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科 2)立命館大学大学院社会学研究科 3)脳損傷による遷延性意識障がい者と家族の会「わかば」
会員種別	学会会員
タイトル	遷延性意識障害者と家族の軌跡：医療と福祉の融合のためには？
概要	遷延性意識障害は、重度脳損傷後に睡眠-覚醒サイクルはあるものの、重度の運動・認知障害が残存する急性期以降の意識障害の総称である。当事者には常時最重度の介護を要し、介護者の負担は多岐にわたり甚大である。また介護の長期化により、当事者・家族・親族の高齢化が進み、新たな問題も生じている。本発表では、遷延性意識障害者とその家族を取り巻く状況の変遷を整理し、課題を抽出するとともに、将来に向けた解決策を提言し、議論を喚起したい。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

10.

発表者	河野 文子
共同発表者	中山 健夫
所属	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野
会員種別	賛助会員
タイトル	疾患をかかえる患者の心に寄り添い共感を示す対話型の患者向け AI 支援ツールの開発：研究計画
概要	近年、インターネットで医療情報を得ることが容易になりましたが、患者と医師の信頼や共感に基づくコミュニケーションの重要性が高まっています。本研究では、信頼や共感を補完する AI チャットボットの開発を目的とし、患者の疑問や悩みに応じた応答を提供します。これにより、診察時間が限られた中でも患者は十分な情報を得られ、医師は AI との対話サマリーを活用できます。開発には専門家の意見を取り入れ、効果はアンケートとインタビューで評価します。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

11.

発表者	廣部敬太
共同発表者	小俣敦士, 水野拓宏, 村上佑順, 三浦繁雄, 樋口直美, 石川翔吾
所属	静岡大学
会員種別	賛助会員
タイトル	認知症当事者との co-production による PX 体験空間の構築
概要	高齢化で認知症の人が増える一方、ケアプロフェッショナルが不足しており、効果的な人材教育が必要となっている。PX(患者体験)を理解することは認知的共感を育み、質の高いケアに繋がる。本研究では、PX を体験することが可能な VR 空間を認知症当事者と共同創造するための環境を構築することを目的とした。2 名のレビー小体病当事者による空間の体験を通して、適切な PX 空間構築に繋がることが示唆された。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

12.

発表者	宮原美香
共同発表者	なし
所属	日本臨床美術協会
会員種別	学会会員
タイトル	臨床美術をベースにしたアート活動の実践
概要	脳が喜び、心が笑う「臨床美術」(医師、美術家、カウンセラーの三位一体で開発された)をベースにしたアート活動をしています。五感をフルに使い、感じたままに表現する、誰に邪魔される事もなく、自由で安心、安全な場を整えるのが私の仕事です。年齢や特徴に関係なく、どなたでも楽しめるアートを提案いたします。五感を刺激し、作品を楽しみながら作る事により、脳が活性化し、心の解放や自己肯定感を引き出していきます。是非、ご案内させてください。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

13.

発表者	日野ひまわり
共同発表者	なし
所属	株式会社栄農人
会員種別	賛助会員（新規入会予定）
タイトル	源流主義とテクノロジー ～日本の農業を変革する栄農人の取組～
概要	弊社は「源流主義」を掲げ、自社で生産・販売を行い、安定的な出荷と販売を実現しています。主にきのこ、青果、果物を栽培し、特に椎茸では日本一の生産量を誇ります。静岡大学と環境問題への取り組みや農業 AI を活用した生産性向上の研究を行っており、VR を使った学びコンテンツも開発中です。シャインマスカットでは施肥や防除の技術を導入予定で、将来的には遠隔操作やマッチングプラットフォームを構築し、販売促進を目指します。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

14.

発表者	大野木健二
共同発表者	なし
所属	介護老人保健施設太陽の丘
会員種別	賛助会員
タイトル	萌和会の新しい取り組み
概要	静岡大学ケア情報学研究所と行った歩行と姿勢プロジェクトの歩行教室参加を通し、現場の視点から感じたこれまでの偏ったリスクマネジメントへの気づきと前向きに変化した職員の意識が萌和会の新しい取り組みである動画を使用した体操「みなりハ」の作成に至り、当法人の方針と抱えていた問題解決に寄与した。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

15.

発表者	大塚千夏子
共同発表者	なし
所属	一般社団法人日本こども成育協会
会員種別	賛助会員
タイトル	親のための「こどもの育ち観察支援」WEB アプリ活用について
概要	大人のための「子どもへの関わり方」を客観視するきっかけと、子どもの「今」の興味得意を「発見」する支援ツール・オヤトコ診断®。発達段階ごと（6 か月ごと）に設定された約 50 問に回答することで、親子関係タイプを示す 16 のオヤトコカラーと、子どもの興味得意の 4 つのゾーンの組み合わせで診断結果が表示されます。入力した人の「子どもとの関わり方」をガイドし、診断ごとの「声がけ」や「かかわり」のアドバイスを提示します。また、子どもの活動について聞く設問は、発達について観察するポイントの提示となり、回答内容から導き出されるアドバイスは子どもの得意の伸ばす働きかけや、興味の範囲を広げる工夫を提示します。発達段階ごとの診断結果を収集することが可能であり、発達の過程の変遷など、データの活用が期待できます。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

16.

発表者	島尾青空
共同発表者	藤田憲一郎, 水野拓宏, 神田洸士, 寺島広樹, 桐山伸也
所属	静岡大学ケア情報学研究所
会員種別	賛助会員
タイトル	VR 技術を活用した歩行と姿勢の改善のための運動介入プログラム開発
概要	静岡大学ケア情報学研究所では、歩行と姿勢の改善に向けた VR セルフケア運動介入プログラムを開発しています。VR センシング技術を活用した歩行状態可視化と介入コンテンツの研究開発状況を紹介し、VR 機器を用いた体験型デモを実施します。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

17.

発表者	山中望 ¹⁾
共同発表者	小俣敦士 ^{1,2)} ，村上佑順 ³⁾ ，菅家穰 ⁴⁾ ，香山壮太 ⁴⁾ ，石川翔吾 ¹⁾
所属	1) 静岡大学 2) 浜松医科大学 3) 一般財団法人オレンジクロス 4) 郡山市医療介護病院
会員種別	賛助会員
タイトル	認知症ケア教育における 360° PX コンテンツ体験時の教育効果評価 方法の検討
概要	ケア人材の不足が加速しており、認知症ケアの効果的かつ効率的な教育が求められている。このような課題へのアプローチとして没入型コンテンツを用いたケア教育が行われているが、それらを客観的に評価し教育効果を検証した研究は少ない。そこで本研究では、没入型コンテンツ体験時の学習活動を EDA や心拍の生体情報によって客観的に評価し、学習効果（共感性と感情評価）との関連を調査するための実験を行った。結果として、没入型ケアコンテンツによる共感スキルの向上を確認し、感情の主観評定結果と生体反応に若干の相関が認められた。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

18

発表者	生源寺類 ¹⁾
共同発表者	島尾青空 ¹⁾ ，石原進 ¹⁾ ，水野拓宏 ¹⁾ ，石川翔吾 ²⁾
所属	1) 静岡大学 2) 静岡大学,水野のみ株式会社アルファコード
会員種別	学会会員
タイトル	360 度没入型 VR コンテンツを活用した学生向け安全衛生教育の取り組み
概要	科学実験で使用する機材は使い方を誤ると重大な事故につながる可能性があり、その危険性と対策を学んでおくことは重要である。今回はガスボンベとドラフトチャンバーの二つを取り上げた 360 度没入型コンテンツの紹介と、学生による体験と評価について紹介する。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。

19.

発表者	市川享子
共同発表者	
所属	東海大学健康学部
会員種別	学会会員
タイトル	エイジングインプレイスを支える政策と生活支援に関する研究 ーデンマークモデルと日本の比較
概要	高齢者の地域での居住継続は政策上の課題であるとともに、高齢者の自己決定にもとづいた高齢期の生活という観点からも重要である。地域での居住継続には公的サービスとそこから不足するサービスを補う仕組みが必要である。本研究では日本においてエイジングインプレイス（高齢者が尊厳をもって自立して自宅・地域で暮らす）を実現するための政策と生活支援について、デンマークモデルとの比較検討から考える。
倫理審査	大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査が不要の研究や取り組み、活動である。

20.

発表者	林 佑輝（はやしゆうき）
共同発表者	
所属	米子工業高等専門学校
会員種別	学会会員
タイトル	居場所の認知的な性質 ―〈時間〉と〈構造〉に着目した検討―
概要	人間にとって居場所とは、「生命・生活・人生」を支えるナラティブである。本研究は、従来の心理的・社会的な検討ではなく、認知的な性質について検討するものである。発表では、居場所に関するアンケート調査の結果を示す。結果をふまえて、居場所が「階層性をもつこと」、「他者との関係性によって決まること」、「時間とともに変容すること」について議論する。更に、居場所の認知的な性質について記述するモデルを提案する。
倫理審査	ヒトを対象とする研究は、大学・研究機関・調査対象機関等の倫理委員会の審査を受け、許可を得ている。